



琉球列島と奄美群島初記録種を含む沖永良部島初記録の魚類 50 種

藤原恭司¹・上原航知²・松岡 翠³・Kunto Wibowo¹・本村浩之⁴

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学大学院連合農学研究科（鹿児島市）
 KF: kyofujiwara627@yahoo.co.jp (corresponding author)
² GT ダイバーズ沖永良部島（和泊町）
 gt@gtdivers.net
³ 鹿児島大学水産学部（鹿児島市）
 m-matsuoka@fish.kagoshima-u.ac.jp
⁴ 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
 motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 14 December 2020
 Revised 16 December 2020
 Accepted 16 December 2020
 Published 17 December 2020
 DOI 10.34583/ichthy.3.0_30

Kyoji Fujiwara, Kazutoshi Uehara, Midori Matsuoka, Kunto Wibowo and Hiroyuki Motomura. 2020. First records of 50 fish species from Okinoerabu Island, the Amami Islands, Kagoshima, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 3: 30–40.

Abstract

Fifty fish species, representing the first records from Okinoerabu Island, the Amami Islands, the Ryukyu Islands, Japan, plus single individual of a possible natural hybrid *Centropyge flavissima* × *Centropyge vrolikii* (Pomacanthidae) were reported on the basis of collected specimens and underwater photographs from the island. These new records include underwater photographs of *Rhinopias xenops* (Scorpaenidae), *Cyprinocirrhites polyactis* (Cirrhitidae), and *Chromis acares* (Pomacentridae), a single specimen of *Brachysomophis crocodilinus* (Ophichthidae); *R. xenops* and the latter three species represent the first records from the Ryukyu and Amami islands, respectively.

沖永良部島は琉球列島の中央に位置する奄美群島に含まれる。同島は隆起サンゴ礁の島で、群島内では奄美大島と徳之島に次ぐ 3 番目に大きな島である。沖永良部島の魚類については、近年、包括的な調査が行われ、その総括として Motomura and Uehara (2020) によって同島から 361 初記録種を含む 637 種が報告された。その後、2020 年 7–8 月に実施した追加調査で著者らは 241 個体の魚類を採集し、新たに撮影された水中写真の同定を行った。その結果、同島から初めて採集された 26 科 50 種とキンチャクダイ科の交雑個体と考えられる写真が得られたので、沖永良部島における魚類相の知見蓄積のため、ここに報告する。

材料と方法

標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村（2009）に準拠した。標準体長は体長または SL と表記した。また、TL は全長を示す。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。リスト中の各種の学名と科の掲載順は本村（2020）にしたがった。本報告に用いた標本（全て鹿児島県沖永良部島産）と生鮮時の写真は鹿児島大学総合研究博物館（KAUM）に所蔵されており、詳細な採集データはリスト中の「標本」の項目を参照。本報告に用いた水中写真は全て第 2 著者によって沖永良部島で撮影された。

沖永良部島初記録の魚類リスト

メジロザメ科 Carcharhinidae

Carcharhinus limbatus (Valenciennes, 1839)

カマストガリザメ (Fig. 1A)

ウミヘビ科 Ophichthidae

Brachysomophis crocodilinus (Bennett, 1833)

タツウミヘビ (Fig. 2A)

標本 KAUM-I. 144985, 550.0 mm TL, 知名町沖泊港内 (27°23'48"N, 128°33'13"E), 水深 2–4 m, 手網, 2020 年 7 月 30 日（夜間）, Kunto Wibowo.

備考 沖永良部島産の標本は、吻が短く、吻長は頭長の 6.3%, 上唇に髭をもつこと、主上顎骨歯が 2 列であること、眼が口裂の中央より前方に位置すること、眼後方に欠刻がないこと、頭長が全長の 14.8%, 胸鰭長が頭長の 8.7%, 尾鰭を欠き、尾端は硬く尖ること、および尾長が全長の 44.7% であることの特徴が波戸岡（2013）の示したタツウミヘビ *Brachysomophis crocodilinus* の特徴と一致したため、本種に同定された。

日本国内において詳細な産地をとまなうタツウミヘビの報告（いずれも標本に基づく）はひじょうに少なく、Yoshino and Nishijima (1981)（沖縄諸島の瀬底島から記録）と岸本・佐々木（1982）（八重山諸島の西表島）に限られる（波戸岡, 2013）。また、奄美群島における近年の魚類相の報告（例えば, Nakae et al., 2018; Mochida and

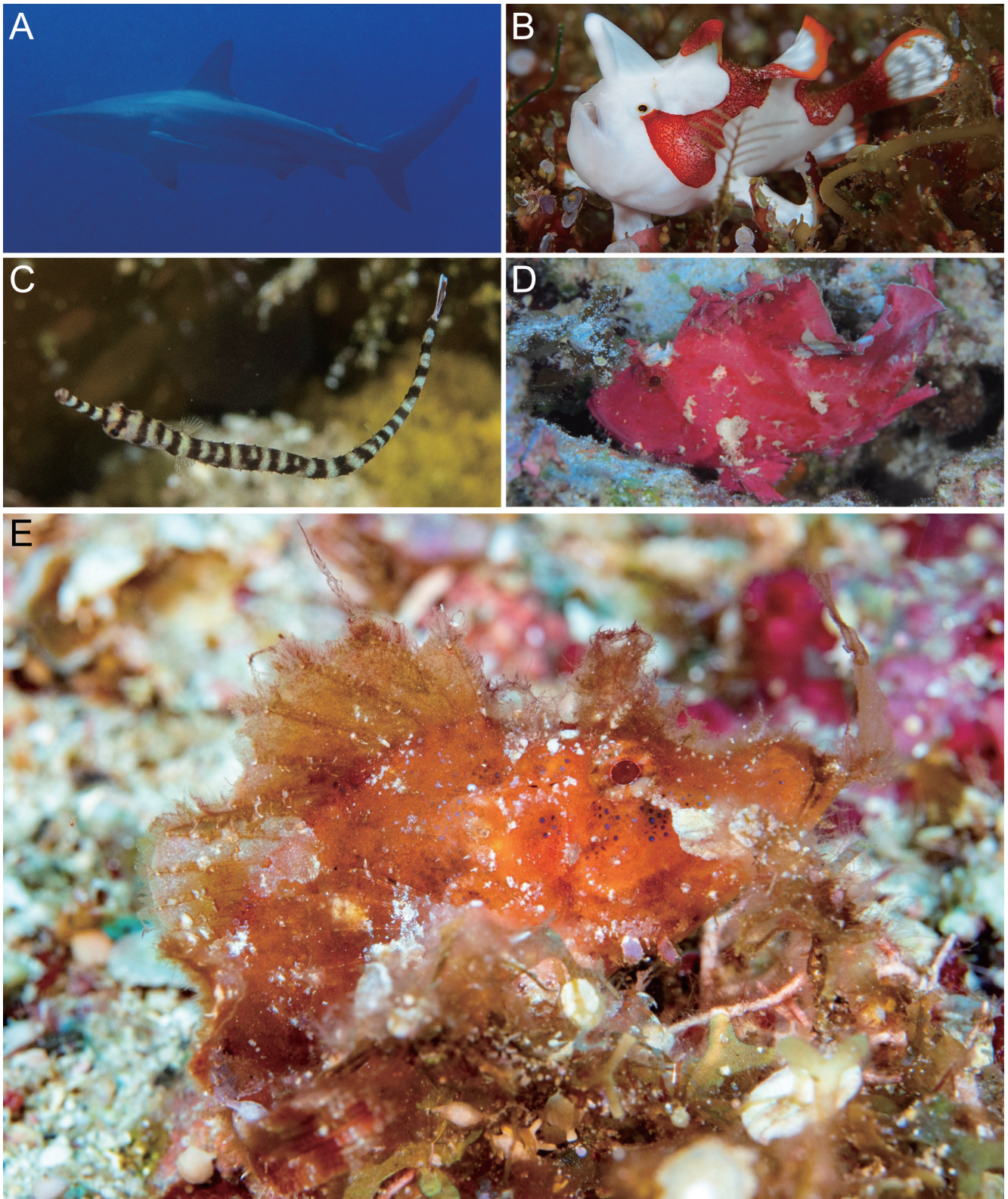


Fig. 1. Fishes recoded from Okinoerabu Island on the basis of underwater photographs. A, *Carcharhinus limbatus* (Carcharhinidae); B, *Antennarius maculatus* (Antennariidae); C, *Doryrhamphus dactyliophorus* (Syngnathidae); D, *Taenianotus triacanthus* (Scorpaenidae); E, *Rhinopias xenops* (Scorpaenidae).

Motomura, 2018 ; 本村ほか, 2019; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020) においても本種は記録されていない。したがって、本研究で得られた沖永良部島産の1標本は、奄美群島におけるタツウミヘビの初記録および、国内における分布の北限記録となる。

沖永良部島産のタツウミヘビは夜間に漁港内の砂地か

ら得られた。その際、標本個体は砂に潜っており、頭部のみを海中に出していた。その後、巣穴の上から手網をかぶせ周囲の砂を掘り起こし、タツウミヘビが網にとびこんだところを採集した。

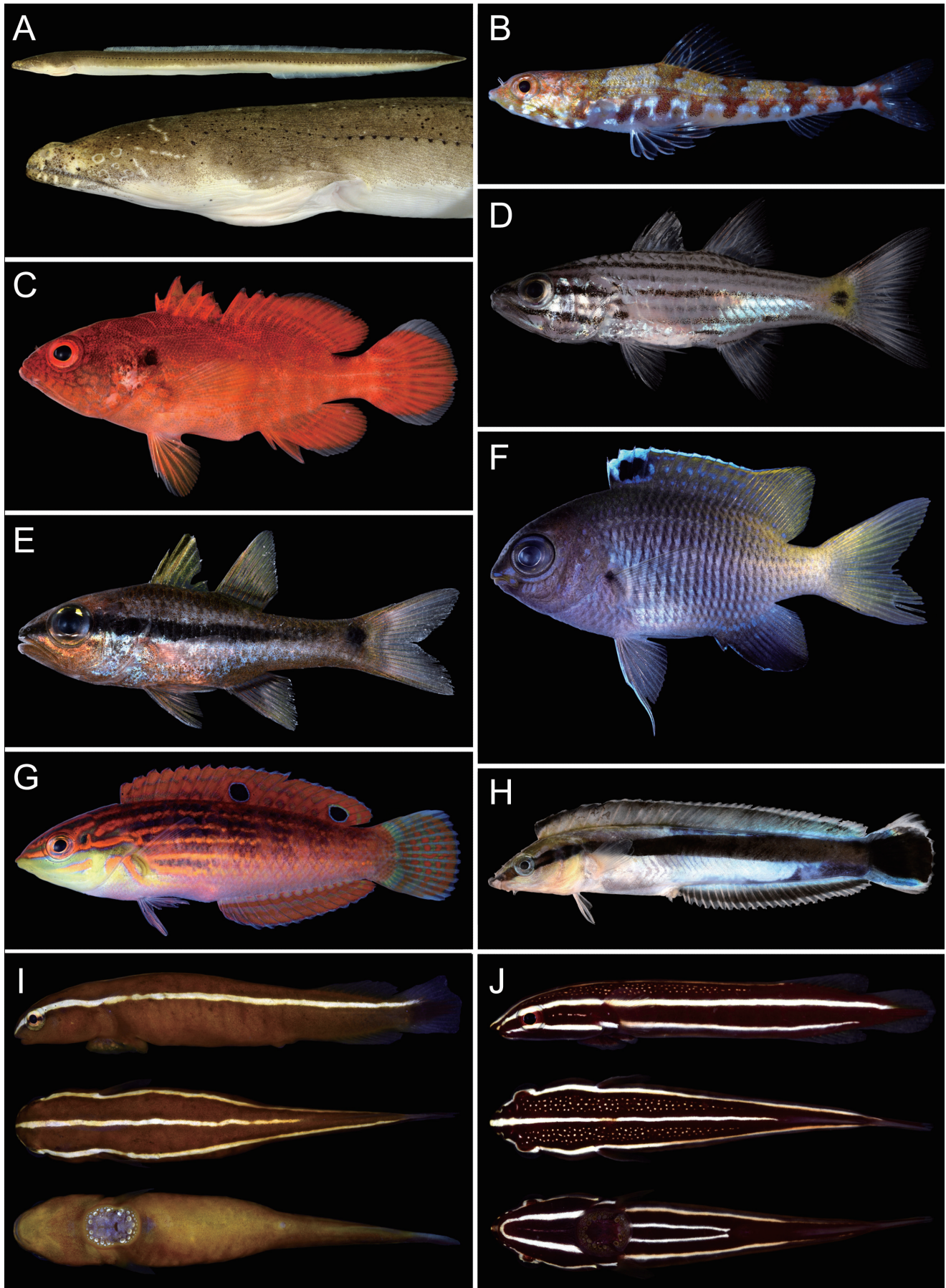


Fig. 2. Fishes recoded from Okinoerabu Island on the basis of specimens. A, *Brachysomophis crocodilinus* (Ophichthidae), KAUM-I. 144985, 550.0 mm TL; B, *Synodus binotatus* (Synodontidae), KAUM-I. 145070, 29.8 mm SL; C, *Cephalopholis leopardus* (Serranidae), KAUM-I. 145121, 32.0 mm SL; D, *Cheilodipterus artus* (Apogonidae), KAUM-I. 145076, 59.8 mm SL; E, *Pristipogon kallopterus* (Apogonidae), KAUM-I. 145188, 38.7 mm SL; F, *Stegastes insularis* (Pomacentridae), KAUM-I. 145057, 23.0 mm SL; G, *Halichoeres orientalis* (Labridae), KAUM-I. 145164, 32.3 mm SL; H, *Aspidontus taeniatus* (Blenniidae), KAUM-I. 145186, 57.6 mm SL; I, *Discotrema crinophilum* (Gobiesocidae), KAUM-I. 145218, 34.0 mm SL; J, *Discotrema lineatum* (Gobiesocidae), KAUM-I. 145214, 23.0 mm SL.

エソ科 Synodontidae***Synodus binotatus*** Schultz, 1953**ニテンエソ** (Fig. 2B)

標本 KAUM-I. 145070, 29.8 mm SL, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 10–20 m, 手網, 2020 年 7 月 30 日, 松岡 翠.

カエルアンコウ科 Antennariidae***Antennarius maculatus*** (Desjardins, 1840)**クマドリカエルアンコウ** (Fig. 1B)**ヨウジウオ科 Syngnathidae*****Doryrhamphus dactyliophorus*** (Bleeker, 1853)**オイランヨウジ** (Fig. 1C)**フサカサゴ科 Scorpaenidae*****Rhinopias xenops*** (Gilbert, 1905)**ニセボロカサゴ** (Fig. 1E)

備考 沖永良部島で撮影された水中写真の個体は、頭部と体が強く側扁すること、眼上皮弁が著しく伸長しないこと、背鰭棘間の鰭膜が切れ込むこと、体が赤みの強い褐色で、眼下に白色斑があるが、細長い特徴的（涙が流れているように見える）な形ではないこと（幅広い楕円形）、および背鰭軟条部に明瞭な黒色斑を欠くことの特徴が中坊・甲斐 (2013) の示したニセボロカサゴ *Rhinopias xenops* の特徴と一致したため、本種に同定された。

日本国内におけるニセボロカサゴの記録は少なく、これまで伊豆諸島の伊豆大島と八丈島、本州の相模湾西部、志摩半島（三重県）と紀伊半島西岸（和歌山県）、および四国の柏島（高知県）からのみ報告されていた（中坊・甲斐, 2013）。奄美群島における近年の魚類相の報告（タツウミヘビの備考を参照）および、その他の琉球列島（大隅諸島を含む）における魚類相の報告（例えば、本村ほか, 2013; Koeda et al., 2016; 木村ほか, 2017; Motomura and Harazaki, 2017）においても本種は記録されていない。したがって、沖永良部島で撮影された水中写真の個体は、琉球列島におけるニセボロカサゴの初記録および、国内における分布の南限記録となる。

Taenianotus triacanthus Lacepède, 1802**ハダカハオコゼ** (Fig. 1D)**セミホウボウ科 Dactylopteridae*****Dactyloptena orientalis*** (Cuvier, 1829)**セミホウボウ** (Fig. 3A)**ハタ科 Serranidae*****Cephalopholis leopardus*** (Lacepède, 1801)**ミナミイソハタ** (Fig. 2C)

標本 KAUM-I. 145121, 32.0 mm SL, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 20–30 m, 手網, 2020 年 7 月 31 日, 松岡 翠.

Pseudanthias cooperi (Regan, 1902)**カシワハナダイ** (Fig. 3B)***Pseudanthias pascalus*** (Jordan and Tanaka, 1927)**ハナゴイ** (Fig. 3C)***Pseudanthias ventralis ventralis*** (Randall, 1979)**ニラミハナダイ** (Fig. 3D)**テンジクダイ科 Apogonidae*****Cheilodipterus artus*** Smith, 1961**カスミヤライイシモチ** (Fig. 2D)

標本 KAUM-I. 145076, 59.8 mm SL, 知名町沖泊港内 (27°23'48"N, 128°33'13"E), 水深 2–4 m, 手網, 2020 年 7 月 30 日（夜間）, Kunto Wibowo.

Pristiapogon kallopterus (Bleeker, 1856)**カスリイシモチ** (Fig. 2E)

標本 KAUM-I. 145188, 38.7 mm SL, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 5–15 m, 手網, 2020 年 8 月 1 日, 松岡 翠.

フエダイ科 Lutjanidae***Macolor macularis*** Fowler, 1931**ホホスジタルミ** (Fig. 3E)**イサキ科 Haemulidae*****Plectorhinchus chaetodonoides*** Lacepède, 1801**チョウチョウコショウダイ** (Fig. 3F)**イトヨリダイ科 Nemipteridae*****Scolopsis bilineata*** (Bloch, 1793)**フタスジタマガシラ** (Fig. 3G)**ハタンポ科 Pempheridae*****Parapriacanthus ransonneti*** Steindachner, 1870**キンメモドキ** (Fig. 3H)**チョウチョウオ科 Chaetodontidae*****Chaetodon punctatofasciatus*** Cuvier, 1831**シチセンチョウオ** (Fig. 3I)



Fig. 3. Fishes recoded from Okinoerabu Island on the basis of underwater photographs. A, *Dactyloptena orientalis* (Dactylopteridae); B, *Pseudanthias cooperi* (Serranidae); C, *Pseudanthias pascalus* (Serranidae); D, *Pseudanthias ventralis ventralis* (Serranidae); E, *Macolor macularis* (Lutjanidae); F, *Plectorhinchus chaetodonoides* (Haemulidae); G, *Scolopsis bilineata* (Nemipteridae); H, *Parapriacanthus ransonneti* (Pempheridae); I, *Chaetodon punctatofasciatus* (Chaetodontidae); J, *Heniochus diphreutes* (Chaetodontidae).

Heniochus diphreutes Jordan, 1903

ムレハタタテダイ (Fig. 3J)

キンチャクダイ科 Pomacanthidae

Centropyge bicolor (Bloch, 1787)

ソメワケヤッコ (Fig. 4A)

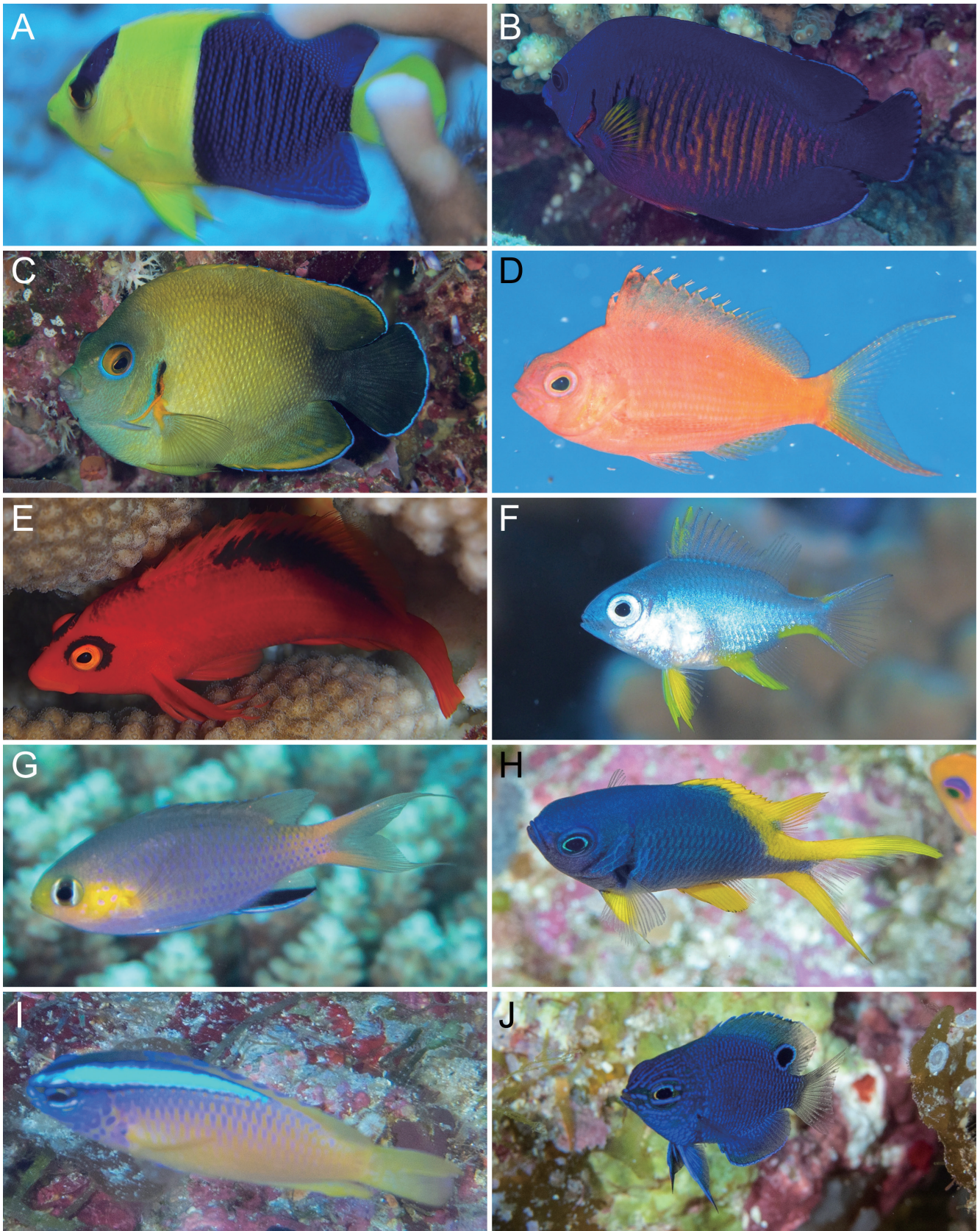


Fig. 4. Fishes recoded from Okinoerabu Island on the basis of underwater photographs. A, *Centropyge bicolor* (Pomacanthidae); B, *Centropyge bispinosa* (Pomacanthidae); C, *Centropyge flavissima* × *C. vrolikii* (Pomacanthidae); D, *Cyprinocirrhites polyactis* (Cirrhitidae); E, *Neocirrhites armatus* (Cirrhitidae); F, *Amblyglyphidodon leucogaster* (Pomacentridae); G, *Chromis acares* (Pomacentridae); H, *Chromis anadema* (Pomacentridae); I, *Chrysiptera caeruleolineata* (Pomacentridae); J, *Pomacentrus nagasakiensis* (Pomacentridae).

Centropyge bispinosa (Günther, 1860)

ルリヤッコ (Fig. 4B)

Centropyge flavissima* × *Centropyge vrolikii

コガネヤッコ × ナメラヤッコ (Fig. 4C)

備考 沖永良部島で撮影された水中写真の個体は、コ

ガネヤッコの特徴（例えば、眼の周囲と鰓蓋後縁が青色で縁取られること）とナメラヤッコの特徴（体の前方が黄色で後方が黒色を帯びること、尾鰭が一様に黒色であること）をそれぞれ併せもつ。コガネヤッコとナメラヤッコの交雑個体は Pyle and Randall (1994) によって報告されており、沖永良部島の個体は彼らが掲載した両種の交雑個体の水中写真 (Pyle and Randall, 1994: fig. 1h) から分かる特徴とよく一致した。両種の交雑個体はこれまで琉球列島（詳細な産地不明）、グアム、コスラエ、およびマーシャル諸島から報告されており (Pyle and Randall, 1994)、本研究によって沖永良部島でも出現が確認された。なお、ナメラヤッコは沖永良部島を含め奄美群島において広く生息しているが、コガネヤッコの同群島からの記録はまだない (島田, 2013; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; 本村ほか, 2019; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020)。

ゴンベ科 Cirrhitidae

Cyprinocirrhites polyactis (Bleeker, 1874)

ウイゴンベ (Fig. 4D)

備考 沖永良部島で撮影された水中写真の個体は、背鰭軟条数が 16、尾鰭が深く二分することの特徴が林・萩原 (2013) の示したウイゴンベ *Cyprinocirrhites polyactis* の特徴と一致したため、本種に同定された。

ウイゴンベはこれまで日本国内において千葉県から高知県にかけての太平洋沿岸、宇和海（愛媛県）、日向灘（宮崎県）、大隅諸島の屋久島と口永良部島（鹿児島県）、および沖縄諸島の伊江島（沖縄県）から報告されており (林・萩原, 2013; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al. 2017; 木村ほか, 2017)、奄美群島は本種の分布の空白域になっていた。奄美群島における近年の魚類相の報告（タツウミヘビの備考を参照）においても本種は記録されていないため、沖永良部島で撮影された水中写真の個体は、奄美群島におけるウイゴンベの初記録となる。

Neocirrhites armatus Castelnau, 1873

ベニゴンベ (Fig. 4E)

スズメダイ科 Pomacentridae

Amblyglyphidodon leucogaster (Bleeker, 1847)

ナミスズメダイ (Fig. 4F)

Chromis acares Randall and Swerdloff, 1973

コビトスズメダイ (Fig. 4G)

備考 沖永良部島で撮影された水中写真の個体は、体に青色点が並ぶ縦帯を形成しないこと、頬部が黄色であること、および尾鰭両縁が黄色であることの特徴が加藤

(2011) や Koeda et al. (2016: fig. 291) の示したコビトスズメダイ *Chromis acares* の特徴と一致したため、本種に同定された。

コビトスズメダイはこれまで日本国内において伊豆諸島の八丈島、小笠原諸島、および沖縄諸島以南の琉球列島から報告されており (加藤, 2011; 青沼ほか, 2013; Koeda et al. 2016)、奄美群島は本種の分布の空白域になっていた。奄美群島における近年の魚類相の報告（タツウミヘビの備考を参照）においても本種は記録されていないため、沖永良部島で撮影された水中写真の個体は、奄美群島におけるコビトスズメダイの初記録となる。

Chromis anadema Motomura, Nishiyama and Chiba, 2017
カンザシスズメダイ (Fig. 4H)

Chrysiptera caeruleolineata (Allen, 1973)

アオスジスズメダイ (Fig. 4I)

Pomacentrus nagasakiensis Tanaka, 1917

ナガサキスズメダイ (Fig. 4J)

Stegastes insularis Allen and Emery, 1985

ヨロンスズメダイ (Fig. 2F)

標本 2 個体（体長 23.0–36.9 mm）：KAUM-I. 145057, 23.0 mm SL, 2020 年 7 月 29 日, KAUM-I. 145158, 36.9 mm SL, 2020 年 7 月 31 日, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 10–20 m, 手網, 藤原恭司。

ベラ科 Labridae

Bodianus loxozonus (Snyder, 1908)

ヒレグロベラ (Fig. 5A)

Cheilinus undulatus Rüppell, 1835

メガネモチノウオ (Fig. 5B)

Coris aygula Lacepède, 1801

カンムリベラ (Fig. 5C)

Halichoeres chrysus Randall, 1981

コガネキュウセン (Fig. 5D)

Halichoeres orientalis Randall, 1999

ツキベラ (Fig. 2G)

標本 2 個体（体長 23.6–32.3 mm）：KAUM-I. 145164, 32.3 mm SL, 2020 年 7 月 31 日, KAUM-I. 145195, 23.6 mm SL, 2020 年 8 月 1 日, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 10–20 m, 手網, 藤原恭司。

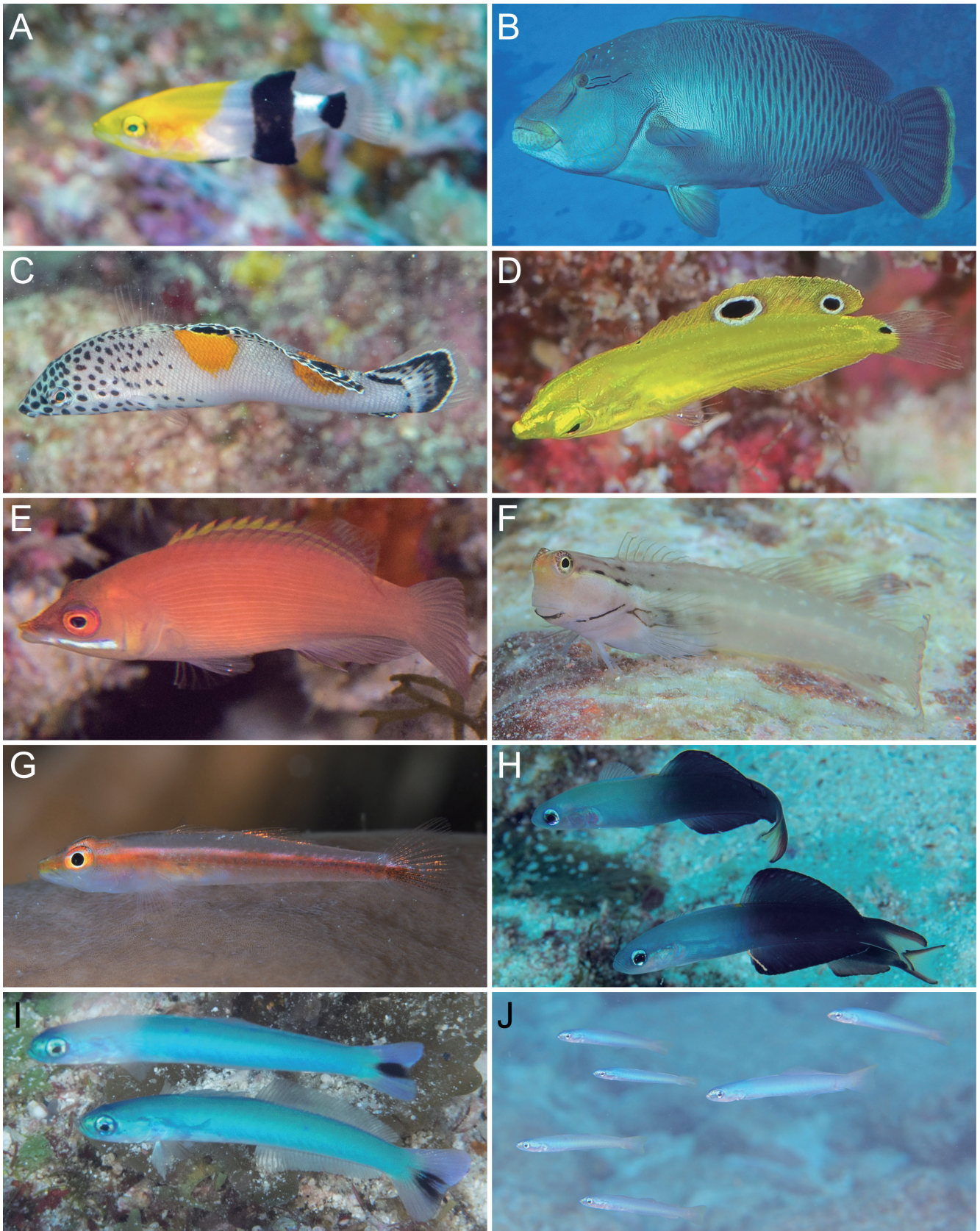


Fig. 5. Fishes recoded from Okinoerabu Island on the basis of underwater photographs. A, *Bodianus loxozonus* (Labridae); B, *Cheilinus undulatus* (Labridae); C, *Coris aygula* (Labridae); D, *Halichoeres chrysus* (Labridae); E, *Pseudocheilinus evanidus* (Labridae); F, *Ecsenius yaeyamaensis* (Blenniidae); G, *Pleurosicya micheli* (Gobiidae); H, *Ptereleotris evides* (Ptereleotridae); I, *Ptereleotris heteroptera* (Ptereleotridae); J, *Ptereleotris microlepis* (Ptereleotridae).

Pseudocheilinus evanidus Jordan and Evermann, 1903

ヒメニセモチノウオ (Fig. 5E)

イソギンボ科 Blenniidae

Aspidontus taeniatus Quoy and Gaimard, 1834

ニセクロスジギンボ (Fig. 2H)

標本 KAUM-I. 145186, 57.6 mm SL, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 10–20 m, 手網, 2020 年 8 月 1 日, 藤原恭司.

Ecsenius yaeyamaensis (Aoyagi, 1954)

イシガキカエルウオ (Fig. 5F)

ウバウオ科 Gobiesocidae

Discotrema crinophilum Briggs, 1976

ウミシダウバウオ (Fig. 2I)

標本 12 個体 (体長 11.2–35.6 mm) : KAUM-I. 145059, 13.2 mm SL, KAUM-I. 145060, 35.6 mm SL, KAUM-I. 145061, 23.3 mm SL, KAUM-I. 145201, 28.1 mm SL, KAUM-I. 145202, 20.9 mm SL, KAUM-I. 145203, 18.2 mm SL, KAUM-I. 145204, 18.3 mm SL, KAUM-I. 145205, 14.4 mm SL, KAUM-I. 145206, 12.0 mm SL, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 20–25 m, 手網, 2020 年 7 月 29 日, 藤原恭司; KAUM-I. 145211, 25.1 mm SL, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 10–20 m, 手網, 2020 年 7 月 30 日, 藤原恭司; KAUM-I. 145217, 11.2 mm SL, KAUM-I. 145218, 34.0 mm SL, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 20–25 m, 手網, 2020 年 8 月 1 日, 藤原恭司.

Discotrema lineatum (Briggs, 1966)

タスジウミシダウバウオ (Fig. 2J)

標本 9 個体 (体長 18.0–26.3 mm) : KAUM-I. 145207, 23.4 mm SL, KAUM-I. 145208, 26.3 mm SL, KAUM-I. 145209, 21.7 mm SL, KAUM-I. 145210, 20.8 mm SL, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 10–25 m, 手網, 2020 年 7 月 29 日, 藤原恭司; KAUM-I. 145213, 20.4 mm SL, KAUM-I. 145214, 23.0 mm SL, KAUM-I. 145215, 16.8 mm SL, KAUM-I. 145216, 19.6 mm SL, KAUM-I. 145220, 18.0 mm SL, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 10–25 m, 手網, 2020 年 8 月 1 日, 藤原恭司.

備考 沖永良部島におけるタスジウミシダウバウオの記録は Motomura and Uehara (2020) が報告した水中写真に限られるため, 本研究で得られた標本は, 本種の標本に基づく沖永良部島初記録となる.

ネズツポ科 Callionymidae

Minysynchiropus kiyoae (Fricke and Zaiser, 1983)

ヒメテグリ (Fig. 6A)

標本 KAUM-I. 145064, 24.2 mm SL, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 10–20 m, 手網, 2020 年 7 月 30 日, Kunto Wibowo.

ハゼ科 Gobiidae

Pleurosicya micheli Fourmanoir, 1971

アカスジウミタケハゼ (Fig. 5G)

Trimma milta Winterbottom, 2002

ホシクズベニハゼ (Fig. 6B)

標本 KAUM-I. 145140, 12.2 mm SL, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 20–30 m, 手網, 2020 年 7 月 31 日, 藤原恭司.

クロユリハゼ科 Ptereleotridae

Ptereleotris evides (Jordan and Hubbs, 1925)

クロユリハゼ (Fig. 5H)

Ptereleotris heteroptera (Bleeker, 1855)

オグロクロユリハゼ (Fig. 5I)

Ptereleotris microlepis (Bleeker, 1856)

イトマンクロユリハゼ (Fig. 5J)

ニザダイ科 Acanthuridae

Zebrasoma velifer (Bloch, 1795)

ヒレナガハギ (Fig. 6C)

標本 KAUM-I. 145110, 26.8 mm SL, 知名町沖泊港内 (27°23'48"N, 128°33'13"E), 水深 2–4 m, 手網, 2020 年 7 月 30 日 (夜間), Kunto Wibowo.

ササウシノシタ科 Soleidae

Aseraggodes xenicus (Matsubara and Ochiai, 1963)

オトメウシノシタ (Fig. 6D)

標本 KAUM-I. 145115, 58.8 mm SL, KAUM-I. 145116, 59.5 mm SL, 知名町沖泊港内 (27°23'48"N, 128°33'13"E), 水深 2–4 m, 手網, 2020 年 7 月 30 日 (夜間), 松岡 翠・Kunto Wibowo.

Soleichthys heterorhinos (Bleeker, 1856)

サザナミウシノシタ (Fig. 6E)

標本 KAUM-I. 145117, 41.9 mm SL, 知名町沖泊港内 (27°23'48"N, 128°33'13"E), 水深 2–4 m, 手網, 2020 年 7 月 30 日 (夜間), Kunto Wibowo.

モンガラカワハギ科 Balistidae

Balistapus undulatus (Park, 1797)

クマドリ (Fig. 6F)

標本 KAUM-I. 145198, 59.2 mm SL, 知名町田皆崎 (27°24'17"N, 128°32'20"E), 水深 10–20 m, 手網, 2020 年 8 月 1 日, 松岡 翠.

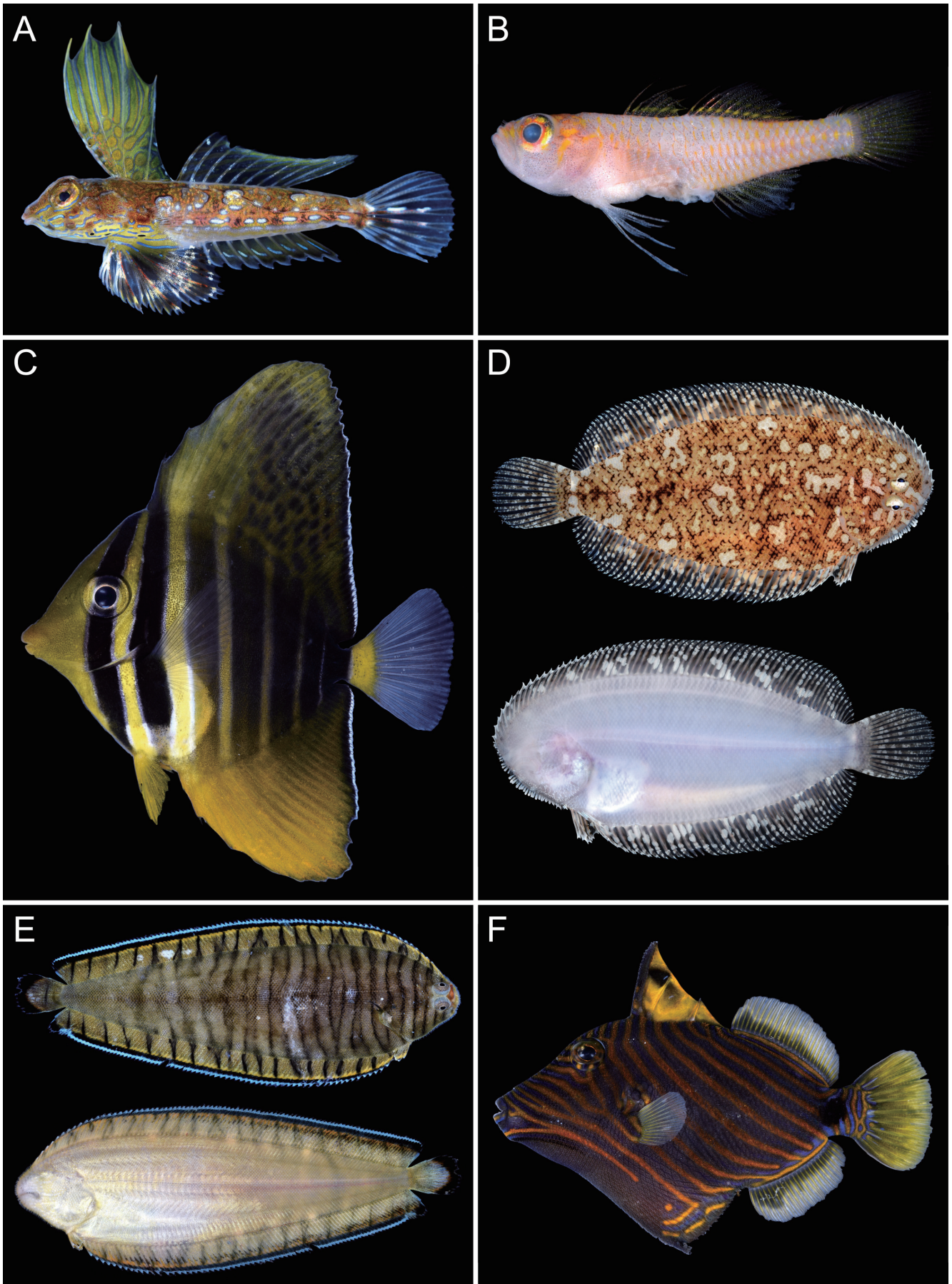


Fig. 6. Fishes recoded from Okinoerabu Island on the basis of specimens. A, *Minysynchiropus kiyoe* (Callionymidae), KAUM–I. 145064, 24.2 mm SL; B, *Trimma milta* (Gobiidae), KAUM–I. 145140, 12.2 mm SL; C, *Zebrasoma velifer* (Acanthuridae), KAUM–I. 145110, 26.8 mm SL; D, *Aseraggodes xenicus* (Soleidae), KAUM–I. 145116, 59.5 mm SL; E, *Soleichthys heterorhinos* (Soleidae), KAUM–I. 145117, 41.9 mm SL; F, *Balistapus undulatus* (Balistidae), KAUM–I. 145198, 59.2 mm SL.

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには標本の登録作業においてご協力いただいた。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 研究奨励費 (DC1: 19J21103), JSPS 科研費 (26241027, 26450265, 20H03311), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

引用文献

- 青沼佳方・吉野哲夫・柳下直己. 2013. スズメダイ科, pp. 1029–1066, 2033–2036. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 14: 1–73. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2020_12_KikaiFishes.pdf)
- 波戸岡清峰. 2013. ウミヘビ科, pp. 266–277, 1794–1802. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・萩原清司. 2013. ゴンベ科, pp. 1018–1021, 2029–2030. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55. (<https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2010920749.pdf>)
- 加藤 昌一. 2011. ネイチャーウォッチングガイドブック スズメダイ〜ひと目で特徴がわかる図解付き〜. 誠文堂新光社, 東京. 239 pp.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太 (編). 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- 岸本浩和・佐々木邦夫. 1982. 西表島 (琉球列島) 産魚類 II. 板鰐類およびウナギ目魚類. 東海大学海洋研究所研究報告, 4: 15–48.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. *Kagoshima University Museum, Kagoshima*. v + 120 pp. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2016_09_Fishes_Yonaguni_highres.pdf)
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2018_09_TokunoshimaFishes_highres.pdf)
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/FishCollectionManual.pdf>)
- 本村浩之. 2020. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 360 pp. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2020_05_JAFList.pdf)
- 本村浩之・羽根慎一・古田和彦・松浦啓一 (編). 2013. 鹿児島県三島村一硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. 390 pp. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/loujima_high_res.pdf)
- 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 2019. 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島. 436 pp.
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2017_02_Fishes_Yakushima_highres.pdf)
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2020_03_Okinoerabu_Fishes_highres.pdf)
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. フサカサゴ科, pp. 683–705, 1939–1946. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, 52: 205–361. (<https://www.kahaku.go.jp/research/researcher/papers/290248.pdf>)
- Pyle, R. L. and J. E. Randall. 1994. A review of hybridization in marine angelfishes (Perciformes: Pomacanthidae). *Environmental Biology of Fishes*, 41: 127–145.
- 島田和彦. 2013. キンチャクダイ科, pp. 1005–1015, 2025–2029. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Yoshino, T. and S. Nishijima. 1981. A list of fishes found around Sesoko Island, Okinawa. *University of the Ryukyus Sesoko Marine Science Laboratory Technical Report*, 8: 19–87, pls. 1–3.